

斧
入
れ
て
香
に
お
ど
ろ
く
や
冬
木
立

高校 (D)

俳句

「斧入れて 香におどろくや 冬木立」江戸時代中期の俳人と謝蕪村の作。出典は「秋しぐれ」。すつかり葉を落とし、眠っているように見える木々。その一本に斧を入れると清々しい香りが冬の張り詰めた空気に広がった。切り口から放たれたのは、春いつせいに芽吹こうとする生命力だ。そんな木がこの道のずつと先まで並んでいる。

斧
入
れ
て
香
に
お
ど
ろ
く
や
冬
木
立

高校 (D)

俳句

「斧入れて 香におどろくや 冬木立」江戸時代中期の俳人と謝蕪村の作。出典は「秋しぐれ」。すつかり葉を落とし、眠っているように見える木々。その一本に斧を入れると清々しい香りが冬の張り詰めた空気に広がった。切り口から放たれたのは、春いつせいに芽吹こうとする生命力だ。そんな木がこの道のずつと先まで並んでいる。